（別紙様式１）

令和６年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　　京丹後市立宇川小学校　　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
夢と希望と創造性あふれる豊かな心をもち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成 ○目指す子ども像 (1)言葉で伝え合い、主体的に学ぶ子(知) (2)自分を大切にし、人を思いやれる子(徳) (3)ねばり強く身体を鍛える子(体)	○極小規模校の強みである一人ひとりに目配り・気配りのできる温かみのある風土の中で、「全教職員で全児童の教育を推進する」ことができた。 ○国語科を重点教科とし、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業研究を、校内授業研究と丹後学園授業研究会を連動させながら推進できた。校内だけでなく学園全体が同一テーマで研究実践をすすめられたことは、大きな成果と言える。更に毎年行なっている学力向上の取組を確実に実施することで、学校全体の学力の底上げを図ることができた。 △素直で心の穏やかな児童の育成が進む一方、社会性が育ちにくい、コミュニケーション能力に乏しいなどの課題が残る。学力についても引き続き大きな課題として認識し、希望進路実現のための基礎学力の向上に取り組む必要がある。個別最適な学びの実現により、誰もがわかる喜びやできる楽しさを味わうことのできる授業改善を追究する。	◇学習指導要領の目指す学力の伸長を目指し、一斉指導型から個別最適な学びへのシフトを加速させる。探求型学習を多く取り入れることで、児童がより主体的に学習課題に向かうような授業改善を進める。 ◇学習端末の効果的な活用を定借させ、未来に生きる力の基盤づくりの取組を行う。 ◇学習の質の変換に合わせた家庭学習の在り方について研究・実践を進める。 ◇児童が安全で安心して過ごせる学級(学校)運営に努める。（いじめの解消、不登校の未然防止、人間関係、環境面） ◇児童が主役となって活躍できる特別活動や異年齢活動などを仕組み、主体性・積極性を育むと共に、互いを認め尊重し合える。教育活動を推進する。 ◇へき地・小規模校の特性を生かし、地域と連携した特色ある学校づくりを行う。

評価項目		重　点　目　標	具　体　的　方　策	成果と課題（自己評価）
学校教育指導の重点、保幼小中一貫教育の諸計画	教育課程 学習指導	1　「できる喜び」「わかる楽しさ」を実感できる授業、主体的・対話的で深い学びを実現する授業を目指し、学力の定着・向上を目指す。 2　探究的な学びの充実による学習意欲の向上と基礎学力の定着、個別最適な学びと協働的な学びの両立を目指す。 3　学習端末の効果的な活用方法について研究する。	1　授業研究を全学級で実施し、授業の質的変換を狙う授業改善を推進する。児童自らが学習者となり対話と表現にあふれた授業づくりをすすめる。児童一人ひとりの確かな学力を育成するための取組を推進する。 2　個々の学力課題を丁寧に分析し、児童の困り感に寄り添った指導を推進する。 3　読書活動、家庭学習の質の向上、ドリルタイムの充実などを図り、学力のベースづくりを継続的に行う。 4　家庭学習の在り方について質的変換を目指した取組を進める。	○児童が主体的な学び手となるような授業改善に全担任が取り組み研究授業を行うことで全校的な授業改善を推進した。学習端末の利活用を推進できるよう全校的にタイピング練習に取り組んだり家庭学習に取り入れたりした。現代的な学校課題に対応できる動きを組織的に展開できた。基礎学力の定着・向上の取組を継続して取り組んだ。(かがやきﾉｰﾄ、計算ﾁｬﾚﾝｼﾞ等) △家庭学習の質的転換を図った。やらされる宿題から自ら取り組む家庭学習へシフトすることを目指し、児童の家庭学習への意識改革を進めたが、まだ道半ばである。

	生徒指導	1　自己有用感と自己肯定感の醸成を図り、進んで学校生活に関わろうとする態度を育成する。 2　人権意識の高揚と規範意識の醸成を目指す。 3　いじめの未然防止 4　個に応じた支援の充実による状況改善を推進する。	1　特別活動や異年齢集団活動を通して、互いを認め合うことのできる望ましい人間関係を構築させる。 2　いじめ防止の取組を、年間を通じて行うことで、いじめの早期発見・解消と安心できる友達関係を構築させる。 3　少人数学級ならではの学級経営と全職員で全児童を見守ることを通して、丁寧なアセスメントと個に応じた支援による不登校の未然防止に努める。	○児童の主体性・発想を大切にすること、一人ひとりが役割を持ち活躍できること、全児童で活動することを基本方針としてチーム活動や児童会の取組などを推進することで、みんなが笑顔になる仲のよい児童集団を形成できた。 ○いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、アンケート結果や児童の小さな変化等から気になることを確認し対応を協議することで安心安全な学校づくりが進められた。
	健康（体育）・安全	1　体力の向上と基本的な生活習慣づくり 2　安全に生活するための知識と判断力を身につけさせる。 3　将来の夢や希望に向かって何事にも粘り強く取り組むことのできるこころとからだを育てる。	1　体育科の授業や体力づくりの取組、外遊びの奨励を行い、健康に過ごせる体力づくりを行い、体力の向上を図る。また望ましい生活習慣を身につけさせる。 2　日常の学校生活の中で健康に関する取組を継続して行い、健康に関する知識と判断力を身につけさせる。 3　キャリアパスポートなどの活用で、自分の将来に目を向けさせ、目標に向かって日々努力する大切さに気づかせる。	○大勢でのスポーツを楽しみ、互いに高め合うことができるよう合同体育を実施した。全校的な取組として５分間走、短縄跳び等を実施し基礎体力を向上させた。 ○計画的に養護教諭の健康指導や栄養教諭による食育指導を実施して、健康な体作り生活習慣について意識を高めることができた ○『夢』をテーマにした朝会講話などを通して将来の仕事やなりたい自分について意識化を図り全校みんなで考えることができた。
	特別支援教育	1　教育的ニーズや特性に応じた指導･支援を計画的･組織的に推進する。	1　校内教育支援委員会を中心にした組織的で継続的な支援体制と見守り活動を、関係機関との連携を密に取りながら行う。	○SC・SSW との連携や家庭との懇談など組織的対応を推進した。支援学校と連携した校内研修などで理解教育を推進できた。
	特色ある学校づくり	1　へき地小規模校の特性を生かし地域と連携した教育活動を進め、未来を展望できる児童を育成する。	1　総合的な学習の時間や生活科の授業などに地域教材・地域人材などを活用した学習を取り入れる。地域社会との交流や情報発信に努める。	○総合的な学習の時間や生活科の授業で地域を知る学習や広く知ってもらうための活動を、補助金を活用し進めてきた。学習発表会で発表したり ICT も活用したりした。
次年度に向けた改善の方向性	・児童が学び手となり主体的に学習を進める授業への質的転換の研究、さらに安定した学校（学級）運営により、学力向上や生きる力の育成と学習端末の効果的な利活用による新しい教育手法への対応、少人数学級のよさを生かした学習活動をより一層推進する。 ・コミュニケーション能力・社会性の向上、非認知能力を高め、自己肯定感を持てる教育活動を構築する。 ・地域学習をこれまで以上に取り入れることで、故郷に愛着をもち、未来を創造する児童を育成する。			